

密厳院并露懺悔文

われらさんげ　むし　このか
我等懺悔す　無始より来た

妄想に纏われて　衆罪を造る

身口意の業　常に顛倒して

誤って　無量不善の業を犯す

珍財を憊吝して　施を行ぜず

意に任せて　放逸にして　戒を持たず

屢々忿怒を起して　忍辱ならず

多く懈怠を生じて　精進ならず

心意　散乱して　坐禅せず

実相に　違背して　慧を修せず

恒に　是の如くの六度の行を退して

還て　流転三途の業を作る

名を比丘に仮って　伽藍を穢し

形を沙門に比して　信施を受く

受くる所の戒品は　忘れて持せず

学がくすす可りきき律り儀ぎは 廃はいして好このむこと無なし

諸しよ仏ぶつの厭えん患のしたもつ所ところを慚はじず 菩ぼ薩ざつの苦く惱のうする所ところを畏おそれず

遊ゆ戲ぎ笑しょう語ごして 徒ただに年としを送おくり

諂てん詐のう偽ぎして 空むなしく日ひを過すぐ

善ぜん友たにに随したがわずして 癡ち人にんに親したしみ

善ぜん根こんを勤しんめずして 悪あく行ぎやうを嘗かたむ

利り養やうを得えんと欲ほつしては 自じ徳とくを讚さんじ

勝しょう徳とくの者ものを見ては 嫉しつ妬とを懷いだく

卑ひ賤せんの人にんを見ては 僞ぎ慢まんを生しじ

富ぶ饒じょうの所ところを聞きいては 希け望ぼうを起おこす

貧びん乏ぼうの類るいを聞きいては 常じょうに厭あり

故こらに殺ころし 誤あやまりして殺ころす有う情じやうの命いのち

願あひとに取り 密ひそかに取とる他た人にんの財ざい

触ふれても触ふれずして非ひ梵ぼん行ぎやうを犯おかす

四し意い三さん 互たがいに相あひ続つして

仏ほとけを觀かん念ねんする時ときは攀へん縁ねんを発おこし 經きやうを誦じゆ誦じゆする時ときは又また句くを錯あやます

若し善根を作せば 有相に住し

還て 輪廻生死の因と成る

行住坐臥 知ると知らざると 犯す所の是の如くの無量の罪

今三宝に対して皆な発露したてまつる

慈悲哀慈して 消除せしめたまえ

皆な 悉く発露し 尽く懺悔したてまつる

乃至 法界の諸の衆生 二業所作の是の凡々の罪

我皆な相代わって 尽く懺悔したてまつる

更に亦 其の報を受け令められ